

大学番号：私567

注3

[平成25年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

福岡女学院大学 人文学部 言語芸術学科及び  
メディア・コミュニケーション学科

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 福岡女学院  
平成25年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 シ ム フ チョウ ナリタ ユウジ  
事務部長・成田 有司

電話番号 092-575-6427

（夜間） 092-581-1492

F A X 092-575-4456

e-mail hyoka@fukujo.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に  
( ) 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成25年3月15日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等  
の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目 次

1 調査対象大学等の概要等	.....	1
(1) 設置者		
(2) 大学名		
(3) 大学の位置		
(4) 管理運営組織		
(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等		
-① 調査対象学部等の名称, 定員		
-② 調査対象学部等の入学者の状況		
-③ 調査対象学部等の在学者の状況		
-④ 調査対象学部等の退学者等の状況		
2 授業科目の概要	.....	6
(1) 授業科目表		
(2) 授業科目数		
(3) 未開講科目		
(4) 廃止科目		
(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」		
(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合		
3 施設・設備の整備状況, 経費	.....	17
4 既設大学等の状況	.....	18
5 教員組織の状況	.....	19
(1) 担当教員表		(一部省略)
(2) 専任教員数		
(3) 専任教員辞任等の理由		
(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」		
6 留意事項に対する履行状況等	.....	29
7 その他全般的事項	.....	30
(1) 設置計画変更事項等		
(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)		
(3) 自己点検・評価等に関する事項		
(4) 情報公表に関する事項		
・福岡女学院大学自己点検・評価・FD委員会規程 (別添)		

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 福岡女学院

## (2) 大学名

福岡女学院大学

## (3) 大学の位置

〒811-1313

福岡県福岡市南区日佐3丁目42番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(マツバラ ヤスヒロ) 松原 安宏 (平成19年6月)		
学長	(キノワキ エツロウ) 木ノ脇 悦郎 (平成22年4月)		
学部長	(ヨシダ シュウサク) 吉田 修作 (平成17年4月)		
学科長等 (言語芸術学科長)	(ウエダ オサム) 上田 修 (平成25年4月)		
学科長等 (メディア・コミュニケーション学科長)	(キヨカワ ナオト) 清川 直人 (平成25年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成23年度に報告済の内容 → (23)

平成25年度に報告する内容 → (25)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は, 平成22年度開設の4年制の学科の場合(平成25年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の 名称(学位)	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
人文学部 言語芸術学科  学士(人文学)	4 年	50 人	3年次 2 年次 人	204 人	
人文学部 メディア・コミュニケーション学科  学士(人文学)	4 年	50 人	3年次 2 年次 人	204 人	

(注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
人文学部 言語芸術学科 A 入学定員	人 50 ( - ) [ - ]	人 - ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	0.78 倍	
志願者数	123 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	121 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	59 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	39 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.78									
人文学部 メディア・コミュニケーション学科 A 入学定員	人 50 ( - ) [ - ]	人 - ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	人 ( ) ( ) [ ]	1.04 倍	
志願者数	208 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	201 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	92 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	52 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	1.04									

- (注) ・ 数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ [ ] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入**してください。
  - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
人文学部 言語芸術学科 1年次	[ - ] 39	[ - ] -	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
2年次	/		[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
3年次			/		[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
4年次	/				/		/		[ ]	[ ]	[ ]
計			[ - ] 39	[ ]					[ ]	[ ]	[ ]
人文学部 メディア・コミュニケーション学科 1年次	[ - ] 52	[ - ] -	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
2年次	/		[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
3年次			/		[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
4年次	/				/		/		[ ]	[ ]	[ ]
計			[ - ] 52	[ ]					[ ]	[ ]	[ ]

- (注) ・ 数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について **内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

<人文学部 言語芸術学科>

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	39人	0人	平成25年度	0人	0人		0%
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	人	0人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	0人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0人	平成28年度	人	人		%
合計	39人	0人					0%

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	52人	0人	平成25年度	0人	0人		0%
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	人	0人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	0人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0人	平成28年度	人	人		%
合計	52人	0人					0%

(注)・数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成25年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

### (1) 授業科目表

<人文学部 言語芸術学科>

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学 共通科目	聖書概説	1前	2					1				
	キリスト教の歴史と文化	2後	2					1				
	キリスト教人間学	3前	2					1				
	First-year English A I	1前	2									兼2
	First-year English A II	1後	2									兼2
	First-year English B I	1前	2									兼2
	First-year English B II	1後	2									兼2
	情報リテラシー	1前	2									兼1
小計 (8科目)	—	—	16	0	0	0	0	1	0	0	兼5	—
専門 教育科目	日本語トレーニング I	1前	2			2	1	+				受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
	日本語トレーニング II	1後	2			2	1	+				受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
	英語トレーニング I	1前	2				1					受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
	英語トレーニング II	1後	2				1					受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
	英語発音スキル I	1前	2				1	0	+			学内人事に伴う昇格 (25)
	英語発音スキル II	1後	2				1	0	+			学内人事に伴う昇格 (25)
	身体表現ワークショップ	1前	2			1						
	シンキングゲーム I	1前	2			1						
	シンキングゲーム II	1後	2				1					
	インプロ・ゲーム	1前	2			3	2	-				学内人事に伴う昇格、及び教育効果を考慮し授業形態を変更、及び受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
	テーマ・シンキング	2前	2			3	3	1				集中・オムニバス 集中 学内人事に伴う昇格 (25)
小計 (11科目)	—	—	22	0	0	3	3	1	0	0	兼0	—
専門 教育科目	言語芸術基礎 I	2前	2			3	3	0				学内人事に伴う昇格 (25)
	言語芸術基礎 II	2後	2			3	3	0				オムニバス 学内人事に伴う昇格 (25)
	言語芸術演習 I	3前	2			3	3	0				オムニバス 学内人事に伴う昇格 (25)
	言語芸術演習 II	3後	2			3	3	0				学内人事に伴う昇格 (25)
	言語芸術研究 I	4前	4			3	3	0				学内人事に伴う昇格 (25)
	言語芸術研究 II	4後	4			3	3	0				学内人事に伴う昇格 (25)
	小計 (6科目)	—	—	16	0	0	3	3	0	0	0	兼0
専門 教育科目	海外フィールドワーク(理論) I	3前		2		1	2	0				学内人事に伴う昇格 (25)
	海外フィールドワーク(理論) II	3後		2		1	2	0				オムニバス 学内人事に伴う昇格 (25)
	海外フィールドワーク(実践)	3前		6		3	3	1				オムニバス 学内人事に伴う昇格 (25)
	国内フィールドワーク(理論) I	3前		2		2	1	1				集中 オムニバス
	国内フィールドワーク(理論) II	3後		2		2	1	1				オムニバス
	国内フィールドワーク(実践)	3前		4		3	3	1				学内人事に伴う昇格 (25)
	小計 (6科目)	—	—	0	18	0	3	3	1	0	0	兼0





科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文学部 共通科目	選択科目	児童英語教育法	2・3・4前	2								兼1	
		児童英語指導法演習Ⅰ	3・4前	2								兼1	
		児童英語指導法演習Ⅱ	3・4後	2								兼1	
		児童英語フィールドワーク	3・4前	2								兼1 リト	
		児童日本語教育法	2・3・4後	2								兼2	
		日本語コミュニケーション技法A	2・3・4後	2								兼3	
		日本語コミュニケーション技法B	3・4前	2								兼3	
		日本語コミュニケーション技法C	3・4後	2								兼3	
		日本語教育概論Ⅰ	2・3・4前	2								兼1	
		日本語教育概論Ⅱ	2・3・4後	2								兼1	
		日本語教材研究Ⅰ	3・4前	2								兼1	
		日本語教材研究Ⅱ	3・4後	2								兼1	
		日本語教授法演習Ⅰ	4前	2								兼1	
		日本語教授法演習Ⅱ	4後	2								兼1	
日本語教育実習フィールドワーク	2・3・4前・後	2								兼1 集中			
小計 (35科目)	—	0	70	0	0	1 -0	0	0	0	0	兼22 兼24		
専門教育科目	選択科目	舞台制作Ⅰ	1・2・3・4前	2		1	+					兼1 集中・リト	
		舞台制作Ⅱ	1・2・3・4後	2		1	+					兼1 集中・リト	
		ヴォイストレーニング	1・2・3・4後	2								兼1	
		映画と社会	1・2・3・4後	2				1					
		映画研究J	1・2・3・4前	2				1					
		映画研究E	1・2・3・4後	2				1				教育効果を考慮し開講期を変更 (25)	
		英語ポキャブラリービルディングⅠ	2・3・4前	2			1						
		英語ポキャブラリービルディングⅡ	2・3・4後	2			1						
		ポップカルチャーJ	2・3・4前	2				1				学内人事に伴う昇格 (25)	
		ポップカルチャーE	2・3・4前	2				-0	+				
		古典文化J	2・3・4後	2			1						
		古典文化E	2・3・4後	2								兼1	
		名作を読むJⅠ	2・3・4前	2			1					学内人事に伴う昇格 (25)	
		名作を読むEⅠ	2・3・4後	2				-0	+				
		小説のスタイル	2・3・4前	2			1					学内人事に伴う昇格 (25)	
		詩のスタイル	2・3・4前	2				-0	+				
		物語のスタイル	2・3・4後	2			1						
		美術館・博物館フィールドワーク	2・3・4後	2			1					集中	
		劇場フィールドワークⅠ	2・3・4前	2			1						
		劇場フィールドワークⅡ	2・3・4後	2			1						
		宗教と文化	3・4後	2						1			
		演劇・芸能研究J	3・4後	2			1						
		演劇・芸能研究E	3・4後	2				1					
		名作を読むJⅡ	3・4前	2			1						
		名作を読むEⅡ	3・4後	2			1						
		NPO入門	3・4前	2									兼1
		言語芸術ワークショップA	1・2・3・4前	2			1						集中・リト
		言語芸術ワークショップB	1・2・3・4前	2			1						リト 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
		言語芸術ワークショップC	1・2・3・4前	2			1						集中・リト
		言語芸術ワークショップD	1・2・3・4前	2				1					集中・リト
		言語芸術ワークショップE	1・2・3・4前	2				1					集中・リト
		言語芸術ワークショップF	1・2・3・4前	2				-0	+				学内人事に伴う昇格 (25)
言語芸術ワークショップG	1・2・3・4前	2						1			集中・リト		
言語芸術フィールドワークA	1・2・3・4前	2			1						集中・リト		
言語芸術フィールドワークB	1・2・3・4後	2			1						リト 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)		
言語芸術フィールドワークC	1・2・3・4前	2			1						集中・リト		
言語芸術フィールドワークD	1・2・3・4前	2				1					集中・リト		
言語芸術フィールドワークE	1・2・3・4前	2				1					集中・リト		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	言語芸術フィールドワークF	1-2-3-4前		2			1	0				学内人事に伴う昇格 (25) 集中・リポート 集中・リポート
	言語芸術フィールドワークG	1-2-3-4前		2			<del>0</del>	<del>+</del>			兼1 集中	
	アートマネージメント	2-3-4前		2				1				
	異文化コミュニケーション	1-2-3-4前		2								兼1 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
	初級英語音声学	2-3-4後		2		1						
	英語学概論	2-3-4後		2		1						
	英文法 I	2-3-4前		2								兼1
	英文法 II	2-3-4後		2								
	第二言語習得理論 I	2-3-4前		2								兼1
	第二言語習得理論 II	2-3-4後		2								
	イギリス文学の変遷 I	2-3-4前		2			1					兼1
	イギリス文学の変遷 II	2-3-4後		2			1					
	イギリス文学 I	3-4前		2			1	0				学内人事に伴う昇格 (25)
	イギリス文学 II	3-4後		2			<del>0</del>	<del>+</del>				学内人事に伴う昇格 (25)
	アメリカ文学の変遷 I	2-3-4前		2			1	0				兼1
アメリカ文学の変遷 II	2-3-4後		2			<del>0</del>	<del>+</del>					
アメリカ文学 I	3-4前		2								兼1	
アメリカ文学 II	3-4後		2									
小計 (56科目)		—	0	112	0	3	<del>2</del>	<del>2</del>	0	0	兼10	—
小計 (159科目)		—	54	272	0	3	<del>2</del>	<del>2</del>	0	0	兼62 兼04	—
教職に関する科目	教師論	2前			2							兼1
	教育課程論	2前			2							
	英語科教育法 I	2前			2							兼1 教職課程認定委員会からの意見を受け科目を追加 (25)
	英語科教育法 II	2後			2							
	英語科教育法 III	3前			2							兼1
	英語科教育法 IV	3後			2							
	道德教育の理論と指導法	3後			2							兼1
	特別活動の理論と指導法	2後			2							
	教育方法論	2後			2							兼1 教職課程認定委員会からの意見を受け科目を追加 (25)
	生徒指導の理論と指導法	3前			2							兼1
	教育相談	3後			2							
	教育実習 I	3後~4前			1							兼1
	教育実習 II A	4後			4							
	教育実習 II B	4後			2							兼1
	教職実践演習(中・高)	4後			2							
小計 (15科目)		—	0	0	31	0	0	0	0	0	兼5	—
小計 (13科目)		—	0	0	<del>27</del>	0	0	0	0	0	<del>兼4</del>	—
合計 (174科目)		—	54	272	31	3	<del>2</del>	<del>2</del>	0	0	兼66	—
合計 (172科目)		—	54	272	<del>27</del>	3	<del>2</del>	<del>2</del>	0	0	兼07	—

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成24年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学共通科目	聖書概説	1前	2									兼1		
	キリスト教の歴史と文化	2後	2									兼1		
	キリスト教人間学	3前	2									兼1		
	First-year English A I	1前	2									兼2		
	First-year English A II	1後	2									兼2		
	First-year English B I	1前	2									兼2		
	First-year English B II	1後	2									兼2		
	情報リテラシー	1前	2									兼1		
	小計 (8科目)	—	16	0	0	0	0	0	0	0		兼6 兼7 受講者数を考慮し担当者を変更 (25)		
講義・演習	現代メディア論	2前	2					1				兼1		
	コミュニケーション論	2前	2									兼1		
	デザイン論	2後	2			1						兼1		
	小計 (3科目)	—	6	0	0	1	0	1	0	0		兼1		
専門教育科目	必修科目	入門ワークショップ I	1前	2			2	1						
		入門ワークショップ II	1後	2			2	1						
		メディア基礎演習	1前	2			1							
		コミュニケーション基礎演習	1前	2			0						兼1 兼中 教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更 (25)	
		デザイン基礎演習	1前	2			1						兼1 兼中	
		卒業研究 I	3後	2			5		1					
	卒業研究 II	4前	2			5		1						
	卒業研究 III	4後	2			5		1						
		小計 (8科目)	—	16	0	0	5	1	1	0	0		兼1 兼0	
	総合演習	メディア演習 I A	2前・後	2			1							
		メディア演習 I B	2前・後	2					1					
		メディア演習 II	3前	2			1		1					
コミュニケーション演習 I A		2前・後	2			1								
コミュニケーション演習 I B		2前・後	2			1								
コミュニケーション演習 II		3前	2			2								
選択必修科目	デザイン演習 I A	2前・後	2			1								
	デザイン演習 I B	2前・後	2			1								
	デザイン演習 II	3前	2			2								
	小計 (9科目)	—	0	18	0	5	0	1	0	0		兼0		
	大学共通科目	選択科目	Test Preparation	1・2・3・4前・後	2									兼4
			Speaking Skills A	2・3・4前	2									兼6
Speaking Skills B			2・3・4後	2									兼6	
Reading Skills A			2・3・4前	2									兼5	
Reading Skills B			2・3・4後	2									兼5	
Listening Skills			2・3・4前	2									兼3	
Writing Skills			2・3・4後	2									兼3	
Academic Reading A			3・4前	2									兼1	
Academic Reading B			3・4後	2									兼1	
中国語 I			1・2・3・4前	2									兼1	
中国語 II			1・2・3・4後	2									兼1	
中国語 III			2・3・4前	2									兼1	
中国語 IV		2・3・4後	2									兼1		
韓国語 I		1・2・3・4前	2									兼1		
韓国語 II		1・2・3・4後	2									兼1		
韓国語 III		2・3・4前	2									兼1		
韓国語 IV		2・3・4後	2									兼1		
フランス語 I		1・2・3・4前	2									兼1		
フランス語 II		1・2・3・4後	2									兼1		
フランス語 III		2・3・4前	2									兼1		
フランス語 IV		2・3・4後	2									兼1		
異文化へのアプローチ (欧米)		1・2・3・4前	2									兼1		
異文化へのアプローチ (アジア)		1・2・3・4前	2									兼1		
健康・スポーツ科学実習 A		1・2・3・4前	1									兼3		
健康・スポーツ科学実習 B		1・2・3・4後	1									兼3		
社会人入門 I		1後	2									兼1		
社会人入門 II		2後	2									兼1		
社会人入門 III		3前	2									兼1		
インターンシップ	2前・後	2										兼1		



科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専 門 教 育 科 目	メディア制作ワークショップ	2・3・4前	2								兼1	集中		
	マスメディア・フィールドワーク	2・3・4前	2			1								
	ことばとコミュニケーション	1・2・3・4後	2			1								
	マーケティングとコミュニケーション	2・3・4前	2								兼1			
	対人コミュニケーション	2・3・4前	2								兼1			
	組織コミュニケーション	2・3・4前	2								兼1			
		1・2・3・4前												
	メディアとコミュニケーション	1・2・3・4後	2			1							教育効果を考慮し開講期を変更 (25)	
	デザインとコミュニケーション	2・3・4後	2			1								
	ネットワーク社会とコミュニケーション	2・3・4後	2					1						
	文化とコミュニケーション	2・3・4後	2			1								
		1・2・3・4前												
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4後	2			1							教育効果を考慮し開講期を変更 (25)	
		2・3・4前												
	社会言語学	2・3・4後	2			1							教育効果を考慮し開講期を変更 (25)	
	ビジネスコミュニケーション	2・3・4前	2										兼1	
	コミュニケーション外書講読Ⅰ	3・4前	2											
	コミュニケーション外書講読Ⅱ	3・4後	2											
	英語表現とコミュニケーション	2・3・4前	2											
	視覚コミュニケーション論	2・3・4前	2										兼1	
	メディアアート論	2・3・4前	2										兼1	
	デジタル表示論	2・3・4前	2										兼1	
	比較美術表現論	1・2・3・4後	2			1								
	デザイン形成論	2・3・4前	2			1								
	造形表現基礎	2・3・4後	4			1								
	デザイン表現研究A(色彩)	1・2・3・4前	2			1								
	デザイン表現研究B(印刷)	2・3・4後	4			1								
	デザイン表現研究C(映像)	2・3・4前	4			1								
	デザイン表現研究D(写真)	2・3・4後	2										兼1	
	デザイン表現研究E(CG)	2・3・4後	4			1								
	デザイン表現研究F(素材)	2・3・4前	4			2							兼1	
	メディアアート演習	2・3・4後	4										兼1	
	マスカルチャー論	1・2・3・4前	2										兼1	
	ビジネス英語	1・2・3・4前	2										兼1	
	サウンド表現演習A	2・3・4後	2										兼1	
	サウンド表現演習B	2・3・4後	2										兼1	
	サウンド表現演習C	2・3・4前	2										兼1	
	コピーライティング研究	2・3・4前	2										兼1	
	情報処理A	2・3・4前	2										兼1	
	情報処理B	2・3・4前	2										兼1	
	情報処理C	2・3・4後	2										兼1	
	ワークショップA	1・2・3・4前	2				5	1	1				兼1	教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更 (25)
	ワークショップB	1・2・3・4前	2				+	+	+					兼1
	ワークショップC	1・2・3・4前	2											兼1
	ワークショップD	1・2・3・4前	2											兼1
	ワークショップE	1・2・3・4前	2											兼1
	ワークショップF	1・2・3・4前	2						1					兼1
	ワークショップG	1・2・3・4前	2							1				兼1
	フィールドワークA	1・2・3・4前	2				1							兼1
	フィールドワークB	1・2・3・4前	2				1							兼1
	フィールドワークC	1・2・3・4前	2				1							兼1
	フィールドワークD	1・2・3・4前	2				1							兼1
	フィールドワークE	1・2・3・4前	2				1							兼1
	フィールドワークF	1・2・3・4前	2					1						兼1
	フィールドワークG	1・2・3・4前	2							1				兼1
	日本語学概論Ⅰ	2・3・4前	2				1							
	日本語史Ⅰ	2・3・4前	2				1							
	小計 (66科目)		—	0	144	0	5	1	1	0	0		兼18	—
	合計 (166科目)		—	38	304	0	5	1	1	0	0		兼71 兼72	—

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成24年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
 なお、昨年度の報告書において赤字で見直しした部分については、見直しのまま黒字にしてください。  
 ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。  
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)  
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入しなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見直し修正をしてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

<人文学部 言語芸術学科>

設置時の計画					変更状況					備考
必修	選択必修	選択	自由	計	必修	選択必修	選択	自由	計	
科目 25	科目 6	科目 128	科目 13	科目 172	科目 25	科目 6	科目 128	科目 15	科目 174	教職課程認定委員会からの意見を受け2科目を追加(25)
					[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 2 ]	[ 2 ]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

設置時の計画					変更状況					備考
必修	選択必修	選択	自由	計	必修	選択必修	選択	自由	計	
科目 19	科目 9	科目 138	科目 0	科目 166	科目 19	科目 9	科目 138	科目 0	科目 166	
					[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

### (3) 未開講科目

#### <人文学部 言語芸術学科>

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	ジェンダースタディ（女性と性）	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当者就任辞退のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
2	言語芸術ワークショップA	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
3	言語芸術ワークショップC	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
4	言語芸術ワークショップD	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
5	言語芸術ワークショップE	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
6	言語芸術ワークショップF	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
7	言語芸術ワークショップG	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
8	言語芸術フィールドワークA	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
9	言語芸術フィールドワークC	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
10	言語芸術フィールドワークD	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
11	言語芸術フィールドワークE	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
12	言語芸術フィールドワークF	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
13	言語芸術フィールドワークG	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

#### <人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	ジェンダースタディ（女性と性）	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当者就任辞退のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
2	ワークショップB	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
3	ワークショップC	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
4	ワークショップD	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
5	ワークショップE	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
6	ワークショップF	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
7	ワークショップG	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
8	フィールドワークA	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
9	フィールドワークB	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
10	フィールドワークC	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
11	フィールドワークD	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
12	フィールドワークE	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
13	フィールドワークF	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。
14	フィールドワークG	2	1・2・3・4前	専門	選択	授業内容検討のため平成25年度は開講せず次年度に開講予定。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。



(4) 廃止科目

<人文学部 言語芸術学科>

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<人文学部 言語芸術学科>

<p><b>未開講科目</b>            番号1: 当該科目の他に共通科目として多数開講しており, また次年度履修できるため支障はない。            番号2~13: 言語芸術ワークショップBと言語芸術フィールドワークBを集中講義ではなくそれぞれ前期と後期に開講し段階的に教育効果を高めていく。また該当科目は次年度以降履修可能であり, リポート科目でもあるので支障はない。</p>
--

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

<p><b>未開講科目</b>            番号1: 当該科目の他に共通科目として多数開講しており, また次年度履修できるため支障はない。            番号2~7: ワークショップAの授業形態をオムニバスに変更しA~Gを網羅した内容とした。また, 次年度履修可能であるため支障はない。            番号8~14: 授業内容を検討し次年度から履修できるようにするため支障はない。</p>
---

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

<人文学部 言語芸術学科>

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.07}$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.08}$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	福岡女学院大学短期大 学部と共用			
	校舎敷地	— m <sup>2</sup>	48,165.98 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	48,165.98 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	— m <sup>2</sup>	8,584.82 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	8,584.82 m <sup>2</sup>				
	小 計	— m <sup>2</sup>	56,750.80 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	56,750.80 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	— m <sup>2</sup>	2,657.23 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	2,657.23 m <sup>2</sup>				
	合 計	— m <sup>2</sup>	59,408.03 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	59,408.03 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎	専 用	287 m <sup>2</sup>	26,280.58 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	26,567.58 m <sup>2</sup>	福岡女学院大学短期大 学部と共用			
	( 287 m <sup>2</sup> )	( 24,075.26 m <sup>2</sup> )	( — m <sup>2</sup> )	( 24,362.26 m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	福岡女学院大学短期大 学部と共用 125周年記念館の新築 と既存校舎の用途変更 中による変更。(25)			
	38 室	<del>7</del> 6 室	<del>16</del> 15 室	<del>9</del> 4 室 (補助職員 3人)	<del>6</del> 4 室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	人文学部 言語芸術学科		7 室						
	人文学部 メディア・コミュニケーション学科		7 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	福岡女学院大学短期大 学部と共用につき大 学・短大全体の数値を 計上している。 電子ジャーナル数は バージョンアップによ りタイトル数が大幅に 増加した。(25)	
	人文学部 言語芸術学科・メ ディア・コミュニ ケーション学科	249,200 [57,200] (235,280 [56,071]) <del>(230,300 [56,300])</del>	235 [ 76] ( 202 [40]) <del>( 235 [76])</del>	<del>( 6,653 [6,653])</del> 2,361 [2,361] ( 6,653 [6,653]) <del>( 2,361 [2,361])</del>	9,960 ( 8,416) <del>( 8,760)</del>	1,517 ( 1,457)	0 ( 0)		
	計	249,200 [57,200] (235,280 [56,071]) <del>(230,300 [56,300])</del>	235 [ 76] ( 202 [40]) <del>( 235 [76])</del>	<del>( 6,653 [6,653])</del> 2,361 [2,361] ( 6,653 [6,653]) <del>( 2,361 [2,361])</del>	9,960 ( 8,416) <del>( 8,760)</del>	1,517 ( 1,457)	0 ( 0)		
(6) 図 書 館	面 積	開 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		福岡女学院大学短期大 学部と共用				
	3,552.28 m <sup>2</sup>	400	205,000						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					福岡女学院大学短期大 学部と共用		
	1,860.34 m <sup>2</sup>	テニスコート4面					—		
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学・短大全体教員研 究費は一人50万円の範 囲内で旅費、設備費、 図書費消耗品費に使用 することができる。 共同研究費のうち、短 期海外研修助成金及び 傾斜配分教育研究費を 計160万円増額した。 (25)
		教員1人当り研究費等	500千円	500千円	図書購入費	22,000千円	22,000千円	22,000千円	
	共同研究費等	8,600千円 <del>7,000千円</del>	8,600千円 <del>7,000千円</del>	設備購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,185千円	975千円	975千円	975千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		入学検定料収入および補助金収入等で維持する。							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成25年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(25)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称		福岡女学院大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
大学院								福岡県福岡市南区 日佐3丁目42番1号	
人文科学研究科 修士課程									
比較文化専攻	2	6	—	12	修士(比較文化)	0.83	平成15年度		
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士(心理学)	1.28	平成15年度		
人文学部			3年次						
現代文化学科	4	100	5	410	学士(人文学)	1.16	平成13年度		※平成25年度より 学生募集停止(表 現学科)
表現学科	4	—	—	—	学士(人文学)	—	平成13年度		
言語芸術学科	4	50	2	50	学士(人文学)	0.78	平成25年度		
メディア・コミュニケーション学科	4	50	2	50	学士(人文学)	1.04	平成25年度		
英語学科	4	40	3	166	学士(人文学)	1.26	平成15年度		
人間関係学部			3年次						
心理学科	4	120	4	488	学士(人間関係学)	0.95	平成11年度		
子ども発達学科	4	120	4	488	学士(人間関係学)	1.05	平成11年度		
大学の名称		福岡女学院大学短期大学部							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
英語科	2	200	—	400	短期大学士(英語)	0.52	昭和39年	福岡県福岡市南区 日佐3丁目42番1号	
大学の名称		福岡女学院看護大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.05	平成20年度	福岡県古賀市千鳥 1丁目1番7号	

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)について, それぞれの学校種ごとに, 平成25年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。その際, AC対象学部学科等についても当該様式に記入してください。(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)

・ 「定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の

平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科(短期大学において専攻課程を設置

している場合には, 専攻課程)単位で記入してください。

・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「—」とし, 「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。



設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	道行 千枝	平成25年4月	英語トレーニングⅠ 英語トレーニングⅡ インプロ・ゲーム テーマ・シンキング※ 言語芸術基礎Ⅰ※ 言語芸術基礎Ⅱ※ 言語芸術演習Ⅰ 言語芸術演習Ⅱ 言語芸術研究Ⅰ 言語芸術研究Ⅱ 海外フィールドワーク(理論)Ⅰ※ 海外フィールドワーク(理論)Ⅱ※ 海外フィールドワーク(実践) 国内フィールドワーク(実践) 舞台制作Ⅰ 舞台制作Ⅱ 映画研究E 演劇・芸能研究E 言語芸術ワークショップE 言語芸術フィールドワークE イギリス文学の変遷Ⅰ イギリス文学の変遷Ⅱ	専	准教授	道行 千枝	平成25年4月	英語トレーニングⅠ 英語トレーニングⅡ <del>インプロ・ゲーム</del> テーマ・シンキング※ 言語芸術基礎Ⅰ※ 言語芸術基礎Ⅱ※ 言語芸術演習Ⅰ 言語芸術演習Ⅱ 言語芸術研究Ⅰ 言語芸術研究Ⅱ 海外フィールドワーク(理論)Ⅰ※ 海外フィールドワーク(理論)Ⅱ※ 海外フィールドワーク(実践) 国内フィールドワーク(実践) <del>舞台制作Ⅰ</del> <del>舞台制作Ⅱ</del> 映画研究E 演劇・芸能研究E 言語芸術ワークショップE 言語芸術フィールドワークE イギリス文学の変遷Ⅰ イギリス文学の変遷Ⅱ	受講者数を考慮し担当者を変更(25)  受講者数を考慮し担当者を変更(25) 受講者数を考慮し担当者を変更(25)
専	講師	上村 忠実	平成25年4月	英語発音スキルⅠ 英語発音スキルⅡ インプロ・ゲーム テーマ・シンキング※ 言語芸術基礎Ⅰ※ 言語芸術基礎Ⅱ※ 言語芸術演習Ⅰ 言語芸術演習Ⅱ 言語芸術研究Ⅰ 言語芸術研究Ⅱ 海外フィールドワーク(理論)Ⅰ※ 海外フィールドワーク(理論)Ⅱ※ 海外フィールドワーク(実践) 国内フィールドワーク(実践) ポップカルチャーE 名作を読むEⅠ 詩のスタイル 言語芸術ワークショップF 言語芸術フィールドワークF イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ	専	准教授 <del>講師</del>	上村 忠実	平成25年4月	英語発音スキルⅠ 英語発音スキルⅡ インプロ・ゲーム※ テーマ・シンキング※ 言語芸術基礎Ⅰ※ 言語芸術基礎Ⅱ※ 言語芸術演習Ⅰ 言語芸術演習Ⅱ 言語芸術研究Ⅰ 言語芸術研究Ⅱ 海外フィールドワーク(理論)Ⅰ※ 海外フィールドワーク(理論)Ⅱ※ 海外フィールドワーク(実践) 国内フィールドワーク(実践) ポップカルチャーE 名作を読むEⅠ 詩のスタイル 言語芸術ワークショップF 言語芸術フィールドワークF イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ	教育効果を考慮し授業形態を変更(25)  学内人事に伴う昇任(25)
専	講師	大島 一利	平成25年4月	聖書概説 キリスト教の歴史と文化 キリスト教人間学 日本語トレーニングⅠ※ 日本語トレーニングⅡ※ インプロ・ゲーム テーマ・シンキング※ 海外フィールドワーク(実践) 国内フィールドワーク(理論)Ⅰ※ 国内フィールドワーク(理論)Ⅱ※ 国内フィールドワーク(実践) 宗教と文化 言語芸術ワークショップG 言語芸術フィールドワークG	専	講師	大島 一利	平成25年4月	聖書概説 キリスト教の歴史と文化 キリスト教人間学 <del>日本語トレーニングⅠ※</del> <del>日本語トレーニングⅡ※</del> インプロ・ゲーム※ テーマ・シンキング※ 海外フィールドワーク(実践) 国内フィールドワーク(理論)Ⅰ※ 国内フィールドワーク(理論)Ⅱ※ 国内フィールドワーク(実践) 宗教と文化 言語芸術ワークショップG 言語芸術フィールドワークG	受講者数を考慮し担当者を変更(25) 受講者数を考慮し担当者を変更(25) 教育効果を考慮し授業形態を変更(25)
兼任	教授	清川 直人	平成25年4月	舞台制作Ⅰ 舞台制作Ⅱ						
兼任	教授	Daniel E. Corl	平成25年4月	異文化コミュニケーション						
兼任	教授	池田 肇子	平成26年4月	アメリカ文学の変遷Ⅰ アメリカ文学の変遷Ⅱ						
兼任	教授	伊藤 文一	平成26年4月	教育原理Ⅱ 人権教育の理論と指導法 教師論 道徳教育の理論と指導法 生徒指導の理論と指導法 教育実習Ⅰ 教育実習ⅡA 教育実習ⅡB 教職実践演習(中・高)	兼任	教授	伊藤 文一	平成26年4月	教育経営論 教育課程論 人権教育の理論と指導法 教師論 道徳教育の理論と指導法 生徒指導の理論と指導法 教育実習Ⅰ 教育実習ⅡA 教育実習ⅡB 教職実践演習(中・高)	教職課程認定委員会からの意見を受け科目名称を変更および科目追加(25)
兼任	教授	岩下 伸朗	平成25年4月	社会人入門Ⅲ インターンシップ P C 演習A(ワード) ジェンダースタディ(女性と社会) 経済学入門 国際経済論						
兼任	教授	佐島 顕子	平成25年10月	ジェンダースタディ(女性と聖書)						
兼任	教授	日野 資成	平成25年4月	異文化へのアプローチ(欧米) 異文化へのアプローチ(アジア)						
兼任	教授	細川 博文	平成26年4月	英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ						
兼任	教授	山本 博	平成27年4月	アメリカ文学Ⅰ アメリカ文学Ⅱ						
					兼任	教授	金藤 完三郎	平成25年4月	P C 演習A(ワード)	教育効果を考慮し担当者を追加(25)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	守山 恵子	平成26年4月	児童日本語教育法 日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教材研究Ⅰ 日本語教材研究Ⅱ 日本語教授法演習Ⅰ 日本語教授法演習Ⅱ 日本語教育実習フィールドワーク						
兼任	准教授	浮田 英彦	平成25年10月	社会人入門Ⅰ	兼任	講師		平成25年10月	社会人入門Ⅰ	浮田准教授の長期研修に伴い担当者を変更(25)
兼任	准教授	大橋 由美	平成26年4月	児童英語教育法 第二言語習得理論Ⅰ 第二言語習得理論Ⅱ						
兼任	准教授	岡本 裕子	平成25年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ						
兼任	准教授	高岡 文章	平成25年4月	社会学入門	専	准教授	文屋 敬	平成25年4月	社会学入門	教育効果を考慮し担当者を変更(25)
兼任	准教授	富永 幹人	平成26年10月	教育心理学						
兼任	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原理Ⅰ	兼任	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原理 教育方法論	教職課程認定委員会からの意見を受け科目名称を変更および科目追加(25)
兼任	講師	Alan Williams	平成25年4月	First-year English AⅠ First-year English BⅡ	兼任	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English AⅠ	受講者数を考慮し担当者を変更(25)
					兼任	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English BⅡ	
兼任	講師	Arthur A. Nakano	平成25年4月	First-year English AⅠ First-year English BⅠ						
兼任	講師	城戸 真由美	平成25年10月	First-year English AⅡ	兼任	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English AⅡ	受講者数を考慮し担当科目を変更(25)
兼任	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育原理Ⅰ 教育原理Ⅱ 人間形成と教育 比較教育A(日本と欧米) 比較教育B(日本とアジア)	兼任	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育原理 教育経営論 人間形成と教育 比較教育A(日本と欧米) 比較教育B(日本とアジア)	教職課程認定委員会からの意見を受け科目名称を変更(25)
兼任	講師	田中 英資	平成25年4月	文化人類学	兼任	准教授 講師	田中 英資	平成25年4月	文化人類学	誤記の訂正(25)
兼任	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English BⅠ	兼任	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English BⅠ	受講者数を考慮し担当科目を変更(25)
兼任	講師	平田 恵理	平成27年4月	児童英語指導法演習Ⅰ 児童英語指導法演習Ⅱ 児童英語フィールドワーク						
兼任	講師	Philippa. Nugent	平成25年10月	First-year English AⅡ First-year English BⅡ						
兼任	講師		平成25年4月	ジェンダースタディ(女性と性)			後任未定			講師就任辞退のため後任を公募中(25)
兼任	講師		平成26年10月	児童日本語教育法						
兼任	講師		平成25年10月	ヴォイストレーニング						
兼任	講師		平成26年4月	Listening Skills Writing Skills Academic Reading A Academic Reading B 児童文学(英語)						
兼任	講師		平成25年4月	P C演習B(エクセル)						
兼任	講師		平成25年4月	人権と法(著作権法を含む) 日本国憲法						
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A 日本語コミュニケーション技法B 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成27年10月	教育相談						
兼任	講師		平成26年4月	英文法Ⅰ 英文法Ⅱ						
兼任	講師		平成27年4月	キッズコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation						
兼任	講師		平成26年10月	障害児教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B Listening Skills Writing Skills						
兼任	講師		平成25年4月	P C演習B(エクセル)						
兼任	講師		平成26年10月	社会人入門Ⅱ						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A						
兼任	講師		平成26年4月	Listening Skills Writing Skills						
兼任	講師		平成25年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ						
兼任	講師		平成27年4月	NPO入門						
兼任	講師		平成26年4月	アートマネジメント						
兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー PC演習C(応用)	兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
					兼任	講師		平成25年4月	PC演習C(応用)	
兼任	講師		平成25年10月	ヘルシーダイエット						
兼任	講師		平成25年10月	生命科学入門						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B 古典文化E						
兼任	講師		平成26年4月	人権教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル) 情報リテラシー	受講者数を考慮し担当科目を変更 (25)
兼任	講師		平成25年4月	PC演習A(ワード)						
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成25年4月	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年10月	特別活動の理論と指導法						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B						
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法A 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成25年10月	国際法入門						
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法B						
兼任	講師		平成25年10月	自然と環境						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成25年4月	国際社会と民族						
兼任	講師		平成26年4月	政治学入門(国際政治を含む)						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B	兼任	教授	角南 良幸	平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B	講師就任辞退のため担当者を 変更(25)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。  
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。  
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。  
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成25年5月1日現在の満年齢を記入してください。  
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。



<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(学科長)	清川 直人	平成25年4月	デザイン論 デザイン基礎演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ デザイン演習ⅠB デザイン演習Ⅱ デザインとコミュニケーション デザイン表現研究B(印刷) デザイン表現研究C(映像) デザイン表現研究F(素材) ワークショップB フィールドワークB	専	教授(学科長)	清川 直人	平成25年4月	デザイン論 デザイン基礎演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ デザイン演習ⅠB デザイン演習Ⅱ デザインとコミュニケーション デザイン表現研究B(印刷) デザイン表現研究C(映像) デザイン表現研究F(素材) ワークショップB フィールドワークB ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者及び科目名へ変更 (25)
専	教授	金藤 完三郎	平成25年4月	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ デザイン演習ⅠA デザイン演習Ⅱ 比較美術表現論 デザイン形成論 造形表現基礎 デザイン表現研究A(色彩) デザイン表現研究E(CG) デザイン表現研究F(素材) ワークショップA フィールドワークA	専	教授	金藤 完三郎	平成25年4月	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ デザイン演習ⅠA デザイン演習Ⅱ 比較美術表現論 デザイン形成論 造形表現基礎 デザイン表現研究A(色彩) デザイン表現研究E(CG) デザイン表現研究F(素材) ワークショップA※ フィールドワークA PC演習A(ワード)	教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更 (25) 教育効果を考慮し担当科目を追加 (25)
					専	教授(学科長)	清川 直人	平成25年4月	ワークショップA※	
					専	教授	二階堂 整	平成25年4月	ワークショップA※	
					専	教授	徳永 至	平成25年4月	ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更 (25)
					専	教授	Daniel E. Corl	平成25年4月	ワークショップA※	
					専	准教授	守山 恵子	平成25年4月	ワークショップA※	
					専	講師	林田 真心子	平成25年4月	ワークショップA※	
専	教授	二階堂 整	平成25年4月	入門ワークショップⅠ 入門ワークショップⅡ コミュニケーション基礎演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ コミュニケーション演習ⅠA コミュニケーション演習Ⅱ メディアとことば ことばとコミュニケーション 社会言語学 ワークショップE フィールドワークE 日本語学概論Ⅰ 日本語史Ⅰ	専	教授	二階堂 整	平成25年4月	入門ワークショップⅠ 入門ワークショップⅡ <del>コミュニケーション基礎演習※</del> 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ コミュニケーション演習ⅠA コミュニケーション演習Ⅱ メディアとことば ことばとコミュニケーション 社会言語学 ワークショップE フィールドワークE 日本語学概論Ⅰ 日本語史Ⅰ ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
					兼任	講師		平成25年4月	コミュニケーション基礎演習	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
専	教授	徳永 至	平成25年4月	メディア基礎演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ メディア演習ⅠA メディア演習Ⅱ マスコミ論 実践時事問題研究 メディア表現研究A (放送・映像メディア) マスメディア・フィールドワーク メディアとコミュニケーション ワークショップD フィールドワークD	専	教授	徳永 至	平成25年4月	メディア基礎演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ メディア演習ⅠA メディア演習Ⅱ マスコミ論 実践時事問題研究 メディア表現研究A (放送・映像メディア) マスメディア・フィールドワーク メディアとコミュニケーション ワークショップD フィールドワークD ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者及び科目名へ変更 (25)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	Daniel E. Corl	平成25年4月	入門ワークショップⅠ 入門ワークショップⅡ コミュニケーション基礎演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ コミュニケーション演習ⅠB コミュニケーション演習Ⅱ 文化とコミュニケーション 異文化コミュニケーション コミュニケーション外書講読Ⅰ コミュニケーション外書講読Ⅱ 英語表現とコミュニケーション ワークショップC フィールドワークC	専	教授	Daniel E. Corl	平成25年4月	入門ワークショップⅠ 入門ワークショップⅡ <del>コミュニケーション基礎演習※</del> 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ コミュニケーション演習ⅠB コミュニケーション演習Ⅱ 文化とコミュニケーション 異文化コミュニケーション コミュニケーション外書講読Ⅰ コミュニケーション外書講読Ⅱ 英語表現とコミュニケーション ワークショップC フィールドワークC ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者を変更(25)
					兼任	講師			平成25年4月	コミュニケーション基礎演習
専	准教授	守山 恵子	平成25年4月	入門ワークショップⅠ 入門ワークショップⅡ 児童日本語教育法 日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教材研究Ⅰ 日本語教材研究Ⅱ 日本語教授法演習Ⅰ 日本語教授法演習Ⅱ 日本語教育実習フィールドワーク ワークショップF フィールドワークF	専	准教授	守山 恵子	平成25年4月	入門ワークショップⅠ 入門ワークショップⅡ 児童日本語教育法 日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教材研究Ⅰ 日本語教材研究Ⅱ 日本語教授法演習Ⅰ 日本語教授法演習Ⅱ 日本語教育実習フィールドワーク ワークショップF フィールドワークF ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者及び科目名へ変更(25)
専	講師	林田 真心子	平成25年4月	現代メディア論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ メディア演習ⅠB メディア演習Ⅱ メディア史 地域メディア論 メディア・リテラシー メディア文化論 ネットワーク社会とコミュニケーション ワークショップG フィールドワークG	専	講師	林田 真心子	平成25年4月	現代メディア論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ メディア演習ⅠB メディア演習Ⅱ メディア史 地域メディア論 メディア・リテラシー メディア文化論 ネットワーク社会とコミュニケーション ワークショップG フィールドワークG ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者及び科目名へ変更(25)
兼任	教授	伊藤 文一	平成26年4月	教育原理Ⅱ 人権教育の理論と指導法	兼任	教授	伊藤 文一	平成26年4月	教育経営論 人権教育の理論と指導法	教職課程認定委員会からの意見を 受け科目名称を変更(25)
兼任	教授	岩下 伸朗	平成25年4月	社会人入門Ⅲ インターンシップ P.C演習A(ワード) ジェンダースタディ(女性と社会) 経済学入門 国際経済論						
兼任	教授	佐島 顕子	平成25年10月	ジェンダースタディ(女性と聖書)						
兼任	教授	日野 資成	平成25年4月	異文化へのアプローチ(欧米) 異文化へのアプローチ(アジア)						
兼任	准教授	浮田 英彦	平成25年10月	社会人入門Ⅰ 組織コミュニケーション	兼任	講師		平成25年10月	社会人入門Ⅰ	浮田准教授の長期研修に伴い担当者 を変更(25)
					兼任	准教授	浮田 英彦	平成26年4月	組織コミュニケーション	
兼任	准教授	大橋 由美	平成26年4月	児童英語教育法						
兼任	准教授	岡本 裕子	平成25年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ						
兼任	准教授	高岡 文章	平成25年4月	社会学入門	兼任	准教授	文屋 敬	平成25年4月	社会学入門	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
兼任	准教授	富永 幹人	平成26年10月	教育心理学						
兼任	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原理Ⅰ	兼任	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育経営論	教職課程認定委員会からの意見を 受け科目名称を変更(25)
兼任	講師	大島 一利	平成25年4月	聖書概説 キリスト教の歴史と文化 キリスト教人間学						
兼任	講師	Alan Williams	平成25年4月	First-year English AⅠ First-year English BⅡ	兼任	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English AⅠ	受講者数を考慮し担当者を変更(25)
					兼任	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English BⅡ	
兼任	講師	Arthur A. Nakano	平成25年4月	First-year English AⅠ First-year English BⅠ	兼任	講師	Philippa Nugent	平成25年4月	First-year English AⅠ First-year English BⅠ	受講者数を考慮し担当者を変更(25)
兼任	講師	城戸 真由美	平成25年10月	First-year English AⅡ	兼任	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English AⅡ First-year English BⅡ	受講者数を考慮し担当者を変更(25)
兼任	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育原理Ⅰ 教育原理Ⅱ 人間形成と教育 比較教育A(日本と欧米) 比較教育B(日本とアジア)	兼任	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育経営論 教育経営論 人間形成と教育 比較教育A(日本と欧米) 比較教育B(日本とアジア)	教職課程認定委員会からの意見を 受け科目名称を変更(25)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	田中 英資	平成25年4月	文化人類学	兼任	准教授 <del>講師</del>	田中 英資	平成25年4月	文化人類学	誤記の訂正 (25)
兼任	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B I	兼任	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B I First-year English A I	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
兼任	講師	平田 恵理	平成27年4月	児童英語指導法演習 I 児童英語指導法演習 II 児童英語フィールドワーク						
兼任	講師	Philippa Nugent	平成25年10月	First-year English A II First-year English B II	兼任	講師	Arthur A. Nakano	平成25年4月	First-year English A II First-year English B II	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
兼任	講師		平成25年4月	ジェンダースタディ (女性と性)			後任未定			講師就任辞退のため後任を公募中 (25)
兼任	講師		平成26年10月	児童日本語教育法						
兼任	講師		平成26年10月	サウンド表現演習B						
兼任	講師		平成26年4月	Listening Skills Writing Skills Academic Reading A Academic Reading B 児童文学 (英語)						
兼任	講師		平成25年4月	P C演習B (エクセル) 情報処理B						
兼任	講師		平成25年4月	人権と法 (著作権法を含む) 日本国憲法						
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A 日本語コミュニケーション技法B 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成27年4月	キッズコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation						
兼任	講師		平成26年4月	コピーライティング研究						
兼任	講師		平成26年10月	障害児教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B Listening Skills Writing Skills						
兼任	講師		平成25年4月	P C演習B (エクセル)						
兼任	講師		平成26年10月	社会人入門II						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B						
兼任	講師		平成26年10月	デザイン表現研究D (写真)						
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A						
兼任	講師		平成26年4月	Listening Skills Writing Skills						
兼任	講師		平成25年4月	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV						
兼任	講師		平成26年4月	視覚コミュニケーション論 デジタル表示論						
兼任	講師		平成26年4月	広告論 メディア表現研究B (新聞・出版) メディア表現研究C (広告) マーケティングとコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー P C演習C (応用) サウンド表現演習A	兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
兼任	講師		平成25年4月	サウンド表現演習A	兼任	講師		平成25年4月	P C演習C (応用) サウンド表現演習A	
兼任	講師		平成25年10月	ヘルシーダイエット						
兼任	講師		平成26年4月	メディア制作ワークショップ						
兼任	講師		平成25年10月	生命科学入門						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年10月	映像論						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	人権教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成25年4月	P C演習B (エクセル)	兼任	講師		平成25年4月	P C演習B (エクセル) 情報リテラシー	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師		平成25年4月	PC演習A(ワード)						
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成25年4月	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	対人コミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B						
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法B 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成25年10月	国際法入門						
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法B						
兼任	講師		平成26年4月	コミュニケーション論	兼任	講師		平成26年4月	コミュニケーション論 コミュニケーション基礎演習	教育効果を考慮し担当者を変更(25)
兼任	講師		平成25年10月	自然と環境						
兼任	講師		平成26年4月	サウンド表現演習C						
兼任	講師		平成26年4月	メディアアート論 メディアアート演習						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成25年4月	ビジネス英語						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	ビジネスコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	国際社会と民族						
兼任	講師		平成26年4月	政治学入門(国際政治を含む)						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B	兼任	教授	角南 良幸	平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B	講師就任辞退のため担当者を変更(25)
兼任	講師		平成25年4月	マスカルチャー論						
兼任	講師		平成26年10月	情報処理C						
兼任	講師		平成26年4月	情報処理A						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成25年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

<人文学部 言語芸術学科>

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
3	2	2	0	7	3	3	1	0	7	教授 68歳	0名
(3)	(2)	(2)	(0)	(7)	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	准教授・講師 66歳	

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成25年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成25年5月1日現在、特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
5	1	1	0	7	5	1	1	0	7	教授 68歳	0名
(5)	(1)	(1)	(0)	(7)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	准教授・講師 66歳	

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成25年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成25年5月1日現在、特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

<人文学部 言語芸術学科>

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
—		該当なし	

(注)・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
—		該当なし	

(注)・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<人文学部 言語芸術学科>

該当なし
------

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

該当なし
------

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 ( 年 月)			
設置計画履行状況 調 査 時 ( 年 月)			
設置計画履行状況 調 査 時 ( 年 月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。（認可で設置された学部学科等のみ。）
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

<人文学部 言語芸術学科 及び メディア・コミュニケーション学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど																																												
<p>① 既設大学等の状況</p> <p>平成25年度まで</p> <table border="0" data-bbox="215 1317 683 1585"> <tr> <td colspan="2">福岡女学院大学 人文学部英語学科</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>3年次編入学定員</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>166名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">福岡女学院大学短期大学部 英語科</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>200名</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>400名</td> </tr> </table>	福岡女学院大学 人文学部英語学科		入学定員	40名	3年次編入学定員	3名	収容定員	166名	福岡女学院大学短期大学部 英語科		入学定員	200名	収容定員	400名	<p>① 以下のとおり既設大学等を変更する。</p> <p>教育の充実及び地域社会の要請に対応するため、平成26(2013)年度より、既存の英語学科を国際英語学科に名称変更し、カリキュラムを再編する。そして、新たに国際キャリア学科を設け、国際英語学科とともに2学科で国際キャリア学部を構成する。(平成25年4月届出)</p> <p>国際英語学科の収容定員は204人(入学定員50人・編入学定員2人)、国際キャリア学科の収容定員は286人(入学定員70人・編入学定員3人)とし、国際英語学科の収容定員のうち166人については、平成26年4月より既設の人文学部英語学科(入学定員40人・編入学定員3人)を募集停止し、その入学定員と編入学定員をあてる。残りの324人(国際英語学科の残りの収容定員38人及び国際キャリア学科の収容定員286人)については、国際英語学科の入学定員を人文学部英語学科のものから10人増加(編入学定員は1人減)し、新たに国際キャリア学科の定員を70人(編入学定員3人)にするなどして収容定員を増加する。(平成25年3月認可申請)</p> <p>また、福岡女学院大学短期大学部は、時代の変遷や教育ニーズの変化に対応して教学組織の再編を行ってきたが、少子化による18歳人口の減少、四年制大学志向の進展、学習機会の多様化などの要因により、志願者数・入学者数は年々減少していった。近年は落ち込みが更に厳しく、入学者数は、現行の入学定員200名を下回る結果となった。このため、安定的に定員を充足できるよう、平成26(2014)年度より入学定員・収容定員を減じることとし、学則の変更を行なうこととした。(平成25年6月届出予定)</p> <p>平成26年度より</p> <table border="0" data-bbox="842 1317 1310 1906"> <tr> <td colspan="2">福岡女学院大学 人文学部英語学科(学生募集停止)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国際キャリア学部</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国際英語学科</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <td>3年次編入学定員</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(平成28年度より)</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>204名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国際キャリア学科</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>3年次編入学定員</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(平成28年度より)</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>286名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">福岡女学院大学短期大学部 英語科</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>100名</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>200名</td> </tr> </table>	福岡女学院大学 人文学部英語学科(学生募集停止)		国際キャリア学部		国際英語学科		入学定員	50名	3年次編入学定員	2名	(平成28年度より)		収容定員	204名	国際キャリア学科		入学定員	70名	3年次編入学定員	3名	(平成28年度より)		収容定員	286名	福岡女学院大学短期大学部 英語科		入学定員	100名	収容定員	200名
福岡女学院大学 人文学部英語学科																																													
入学定員	40名																																												
3年次編入学定員	3名																																												
収容定員	166名																																												
福岡女学院大学短期大学部 英語科																																													
入学定員	200名																																												
収容定員	400名																																												
福岡女学院大学 人文学部英語学科(学生募集停止)																																													
国際キャリア学部																																													
国際英語学科																																													
入学定員	50名																																												
3年次編入学定員	2名																																												
(平成28年度より)																																													
収容定員	204名																																												
国際キャリア学科																																													
入学定員	70名																																												
3年次編入学定員	3名																																												
(平成28年度より)																																													
収容定員	286名																																												
福岡女学院大学短期大学部 英語科																																													
入学定員	100名																																												
収容定員	200名																																												

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)



## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

大学に自己点検・評価・FD委員会を設置している。※規程を別添

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

今年度第1回の開催を5月に予定している。

#### c 委員会の審議事項等

- ・FD研修会の内容について
- ・学生による授業評価の実施について
- ・自己点検評価報告書の作成について

### ② 実施状況

#### a 実施内容

- ・FD研修会
- ・「学生による授業評価」の実施

#### b 実施方法

- ・FD研修会は外部講師を招いての講演や、学外で行なわれたFD研修会へ参加した教員の成果報告。
- ・「学生による授業評価」は前期(7月)後期(12月)に実施し、受講者等10名以上の授業を対象に教員が実施授業を選択。

#### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・平成24年度の実績として9月と12月に開催しほぼ全ての専任教員が参加した。  
平成25年度も2回の研修会を予定している。

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業別集計と全体平均について結果表を専任教員および非常勤講師へ配布し、今後の授業改善に役立てている。  
また、実施結果を見て感じたことを文章化し、学生へのフィードバックを行なっている。

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

「学生による授業評価」を前期(7月)と後期(12月)に実施している。

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

授業別集計と全体平均について結果表を専任教員および非常勤講師へ配布し、学生へのフィードバック文章を作成している。作成されたフィードバック文章は全体平均とともに学内ページにて公開している。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

言語芸術学科は、平成25(2013)年度入学試験において、入学定員50名に対し、39名の学生確保にとどまった。本学科は、昨年展開した各種の入学案内において、意識的に「全人的な教養教育」を前面に出してきた。そのため、「就職に役立つ資格取得」「即戦力として働けるカリキュラム」などの謳い文句に慣れている一般の高校生には、イメージしにくい学科だったのかもしれない。この点はある程度予測できたことではあったが、結果としてこのような数字で表れたという事実は素直に受け止め、本年度の入学案内において慎重な対策を考えてゆく。

入試における歩留まり率は、一般前期で50%、一般後期で100%であった。これは、本学における一般入試での歩留まり率全般と比べるとかなり高い数値である。多くの受験生が本学科の教育理念を理解した上で選択したのであると思われる。また、高校訪問や保護者との(入学式後に行った)懇談会の際にわかったことであるが、本学科の教育方針は、社会経験豊かな高等学校教師や親の世代には歓迎されている。したがって、今後は入学生とともに学科の授業内容を外部へ発信することで、学科の認知・理解度は着実に上がって行くと思われる。

本学科では、「身体表現ワークショップ」、「シンキングゲーム」、「言語芸術ワークショップB」(商店街活性化のためのカリキュラム)、「言語芸術寺子屋」(カリキュラム外に設置している英語の補習時間)など、教師が学生のカリキュラムへの取り組み姿勢を体感できる時間が多くある。それらを通じてわかることは、ほとんどの入学生が目先の目的のための技術ではなく、基礎力の重要性を理解していることである。これは、入学後も本学科の教育理念・目的をよく理解しカリキュラムに取り組んでいるということであろう。

メディア・コミュニケーション学科は、平成25(2013)年度入学試験において、入学定員50名に対し208名の志願者があり、52名の入学者を確保できた。受験者の入試受験の動向を設置申請前の表現学科と比較すると、一般入試前期・後期の受験者、入学者の割合が増加傾向にあり、本学科を積極的に志望する受験者の割合が増加したと考えられる。

「授業後の学生の感想」の収集や専門教育科目受講者の授業参加への積極性や受講態度に関する授業担当教員の印象などから、多くの学生が本学科の設置の趣旨・目的を理解した上で入学したと考えられる。

このように受験者の入学試験受験の傾向や入学生の授業受講の積極性、受講態度から、本学科の設置の趣旨・目的は十分に達成できていると考えられる。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表(予定)時期

平成27年5月1日 公表予定

##### b 公表方法

大学ホームページ上で公表する予定

#### ③ 認証評価を受ける計画

大学基準協会による認証評価を平成26年度に申請する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

### (4) 情報公表に関する事項

#### ○ 設置計画履行状況報告書

##### a ホームページに公表の有無

( 有 ・  無 )

##### b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

( 平成25年 7月 1日 )

## 別添

### ○福岡女学院大学自己点検・評価・FD委員会規程

1992（平4）年11月10日制定

最終改正 2007（平19）年1月10日

（目的）

第1条 福岡女学院大学自己点検・評価・FD委員会は、福岡女学院大学（以下「本学」という。）の教育研究水準の向上を図り、本学の建学目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動及び管理運営等の状況について、自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（自己点検・評価・FD委員会）

第2条 本学に、次の各号に掲げる事項を審議し処理するため、福岡女学院大学自己点検・評価・FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 本学における自己点検・評価の基本方針及び実施基準の策定に関すること
- (2) 本学における自己点検・評価の実施に関すること
- (3) 本学におけるFDに関すること
- (4) 自己点検・評価結果のとりまとめに関すること
- (5) 自己点検・評価結果の学長への報告に関すること
- (6) 自己点検・評価システムの見直しに関すること
- (7) その他自己点検・評価に必要な事項に関すること

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する

- (1) 学 長
- (2) 学部長
- (3) 研究科長
- (4) 宗教部長
- (5) 図書館長
- (6) 教務部長
- (7) 学生部長
- (8) 各学部から選出された委員1名
- (9) 事務部長
- (10) その他委員長が必要と認めた者

（任期）

第4条 前条第8号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は委員の3分の2以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(小委員会)

第7条 委員会は必要に応じて小委員会を置くことができる。

2 小委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要を認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(自己点検・評価の実施機関)

第9条 自己点検・評価を行う実施機関（以下「実施機関」という。）は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 学 部
- (2) 大学院
- (3) 宗教部
- (4) 図書館
- (5) 教務部
- (6) 学生部
- (7) 人文学研究所
- (8) 健康センター
- (9) 生涯学習センター
- (10) メディアセンター
- (11) 事務部
- (12) その他委員会が必要と認める機関

2 実施機関が行う自己点検・評価の実施に関し必要な事項は、この規程に定めるもののほか当該実施機関が定める。

(自己点検・評価の事項)

第10条 委員会及び実施機関は、次の各号に掲げる事項について自己点検・評価を行う。

- (1) 本学の教育理念及び目的に関すること
- (2) 教育研究上の組織に関すること
- (3) 学生の受入れに関すること
- (4) 教育課程に関すること
- (5) 教育研究活動に関すること
- (6) 教員組織に関すること

- (7) 図書及び学術情報に関すること
  - (8) 学生生活に関すること
  - (9) 施設及び設備に関すること
  - (10) 管理運営に関すること
  - (11) 事務組織に関すること
  - (12) 自己点検・評価の組織に関すること
  - (13) その他委員会が必要と認める事項
- 2 前項各号に掲げる事項に係る自己点検・評価の項目（以下「点検・評価項目」という。）は、委員会が別に定める。
- 3 委員会及び実施機関が行う具体的な点検・評価項目については、年度毎に委員会が定める。  
（自己点検・評価の実施及び結果等の報告）
- 第11条 実施機関は委員会の決定に基づき、自己点検・評価を毎年度行い、その経過及び結果について委員会に報告するものとする。
- 2 委員会は自己点検・評価を毎年度行い、委員会及び実施機関が行った自己点検・評価の経過及び結果をとりまとめ学長に報告する。  
（自己点検・評価の結果の公表）
- 第12条 学長は前条の自己点検・評価の結果を文書にまとめ、公表するものとする。  
（自己点検・評価の結果の対応）
- 第13条 学長及び実施機関の長は、委員会及び実施機関が行った自己点検・評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、その改善に努める。
- 2 学長は、全学に係る事項で、関連する学内の委員会において改善策を検討することが適当と認められるものについては、当該委員会に付託する。
- 3 学長は、実施機関に係る事項で、委員会が行った自己点検・評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては当該機関の長にその改善策の検討を求めることができる。
- 4 学長は自己点検・評価の結果をふまえ、本学の中長期計画に反映させるよう努めるものとする。  
（事務）
- 第14条 委員会の事務は、事務部長の委嘱したものが担当する。  
（規程の改廃）
- 第15条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長が行うものとする。  
（雑則）
- 第16条 この規程に定めるもののほか、自己点検・評価に関し必要な事項は委員会が別に定める。
- 附 則①
1. この規程は、1993（平5）年4月1日から実施する。

附 則②

1. 第 2 条の一部を改正し、1994（平 6）年 4 月 1 日から実施する。

附 則③

1. 第 2 条の一部を改正し、1996（平 8）年 4 月 1 日から実施する。

附 則④

1. 規程を全面的に改正し、2002（平 14）年 4 月 1 日から施行する。

附 則⑤

1. 第 3 条、第 9 条および第 15 条の一部を改正し、2003（平 15）年 4 月 1 日から実施する。

附 則⑥

1. 第 4 条の一部を改正し、2007（平 19）年 1 月 10 日から実施する。